

# 岩国市美和町北中山ニツ野 山代白羽神楽保存会

山代白羽神楽は、石見神楽「出雲流の神楽」の流れをくむといわれているが、その創始については正確なことは明らかでない。

しかし、寛政6年(1794年)発記の「善秀寺年代記」、安政5年(1858年)3月に行われた生見八幡宮御鎮座千年祭にその存在が記録されている。

当初は、12座で構成された神事舞いであったが、天保10年(1839年)の白羽神社社殿改築落成興業に招いた芸州佐伯郡明石村(現在の広島県廿日市市)の神楽から鑑賞的な神楽を取り入れることになり、当時の若者が伝習を受けて、12座の神楽を24座に改めたという言い伝えがある。

こうした神楽も、昭和14年白羽神社の火災によって神楽に使用する衣装・道具類の一切が焼失したり、昭和30年代中頃には、神楽を伝承した若者の部落外への転出が激しくなるなど時代の変遷と共に、何度か存亡の危機があったが、その度ごとに関係者の尽力によって乗り切り、現在に至っている。



# 山代白羽神楽保存会

